

第4学年 国語科学習指導案

日 時 平成27年11月18日4校時
 児 童 4年11名(男子3名、女子8名)
 授業者 略

- 1 単元名 「登場人物の気持ちを想像して新聞にまとめ、交流しよう。」
 教材名 「ごんぎつね」(東京書籍 4年下)

2 単元を貫く言語活動とその特徴

本単元では、単元を貫く言語活動として新聞作りを位置づけた。

新聞は、出来事の事実などの様々な情報を盛り込めることが特徴である。そこで今回、本単元でねらう「場面の移り変わりに注意しながら、登場人物の性格や気持ちの変化、情景などについて、叙述を基に想像して読むこと(読むこと(1)ウ)」の力を付けるために、**1**あらすじ**2**プロフィール**3**インタビュー**4**物語の続き**5**最後に一言を書かせる。

また、新聞は広く読まれ、共有性も高く、多様な情報を入手するための手段でもある。この特徴を活かして、新聞を読み合うことで、一人一人のちがった考えを知ることができ、さらに自分の考えを深めることができる。よって、本単元の言語活動にふさわしいと考えた。

1あらすじ
 目的や必要に応じて、あらすじをまとめることができる。

3インタビュー
 登場人物同士がどのような関係にあるかを知ることができる。 [読むことウ]

5最後に一言
 物語全体を通して、想像したことや考えたことを書くことができる。 [読むことオ]

2プロフィール
 登場人物の性格を押さえることができる。 [読むことウ]

4物語の続き
 叙述を基に想像して読むことができる。 [読むことウ]



3 単元について

(1) 児童について

本学級の児童は、読書の時間を楽しみにしており読書をするのが好きな児童が多くいる。しかし、読書量には個人差があり、一冊の本をじっくり読む児童は少ない。

【これまでの読むことの学習】

実施時期	単元名／教材名	学習指導要領 指導事項
4年4月	「物語をくふうして音読しよう」／「こわれた千の楽器」	読むこと ア
6月	「人物の様子や気持ちを考えながら読もう」／「走れ」	読むこと エ

このような学習の中で、中心となる人物の気持ちが大きく変化するところを考え、その前後の気持ちの変化を読み取る学習を行ってきた。しかし、登場人物の気持ちを想像することが難しく、上手く表現できない児童や、もう一度読み直して再考することに難しさを感じる児童もいた。

(2) 単元構成について

本単元では言語活動を通して、「場面の移り変わりや登場人物の性格や気持ちの変化」をとらえて、「叙述を基に想像して」読む力を身に付けさせたい。

本教材は、「いたずらばかりしていたごん」が「兵十に償うごん」へ、さらに「同じ境遇である兵十へ心を寄せるごん」へと変容していく物語である。そのために、新聞を作成していく中で、なぜそう考えたのか人物の行動や場面描写などの叙述を基に、理由を添えて発表し合ったり、登場人物にインタビューをしたりする活動を通して、より登場人物の気持ちを想像できるようにしていく。また、本単元では主人公の思いが最後に伝わる展開をもち、登場人物の人物像に迫りやすい物語を用意して、並行読書をさせていく。

	第一次	第二次	第三次
学習活動	学習の見通しをもち、並行読書の中から一冊を選ぶ。	登場人物の気持ちを想像して、新聞にまとめる。	できた新聞を基に、友達と交流をして考えを深める。
	登場人物の気持ちを想像して新聞にまとめ、交流しよう。		
指導上の留意点	<ul style="list-style-type: none"> ・ 先行読書をさせて、学習にスムーズに入れるようにする。 ・ 教師自作のモデルを示しながら学習計画を知らせ、紹介したい一冊を決めさせる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 教科書教材→お気に入りの本→教科書教材と交互に入れ込むA Bワンセット方式で進めていく。 ・ 友達と交流しながら新聞作りを進められるようにする。 <p style="text-align: center;">＜読む能力＞</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 完成した新聞を基に、物語の登場人物の気持ちを想像して交流させる。 ・ 同じ本を選んだグループで交流し、全体に広めさせる。 <p style="text-align: center;">＜読む能力＞</p>
	【並行読書】主人公の思いが最後に伝わる、登場人物の人物像に迫りやすい物語		

(3) 指導について

- ・自分の選んだ並行読書教材でも新聞をつくるという目的意識をもたせ、教科書教材を通して獲得した読みをすぐに生かせるよう、第二次では教科書教材と並行読書教材を交互に入れ込んでいく。(A Bワンセット方式)
- ・登場人物の気持ちの変化が分かりやすいように全文シートを用いる。
- ・より自分の読みを深めるために、同じ物語を選んだ友達と交流ができるように時間を確保していく。

4 単元の指導目標

- ・登場人物の人物像に迫りやすい物語に興味をもって読み、人物の気持ちを想像して捉えようとしている。 [国語への関心・意欲・態度]
- ・場面の移り変わりに気をつけて、人物の気持ちを叙述に即して想像して読み取ることができる。 [読むこと ウ]
- ・文章を読んで考えたことを発表し合い、一人一人の感じ方についてちがいのあることに気付くことができる。 [読むこと オ]
- ・言葉には、考えたことや思ったことを表す働きがあることに気付くことができる。 [伝統的な言語文化と国語の特質に関する指導事項(1)イ(ア)]

5 単元の評価規準

ア国語への関心・意欲・態度	イ読む能力	ウ言語についての知識・理解・技能
①物語の続きを想像したり、友達と交流したりするために、進んで新聞作りに取り組んでいる。	①新聞で自分の考えを交流するため、場面の移り変わりに気をつけて読み、登場人物の気持ちを叙述を基にして想像して読んでいる。 [読むこと ウ] ②物語の続きを想像して書いた文章を読み合っ、一人一人が違った考えをもっていることに気付いている。 [読むこと オ]	①言語には、考えたことや思ったことを表す働きがあることに気付いている。 [伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項(1)イ(ア)]

6 単元の指導計画と評価(全14時間)

次	時	主な学習活動	指導上の留意点(・)と評価(◇)
一	2	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px; text-align: center;">登場人物の気持ちを想像するという学習の見通しをもつ。</div> ① ●「ごんぎつね」の読み聞かせを聞き、感想をキャッチコピーにまとめる。 ●新出漢字やわからない語句の確認をする。	・読み聞かせで、児童に興味をもたせるようにする。 ◇単元の見通しをもち、学習しようとしている。 (ア 発言・ふり返り)

		紹介したい一冊を決める。		
	②	● 先行読書してきた本の中から自分が紹介したい一冊を決めて、感想をキャッチコピーにまとめる。		<ul style="list-style-type: none"> ・登場人物の気持ちを想像する際 叙述を基に書くことが大切なことを知らせる。 ・並行読書の物語の登場人物やあらすじを確認する。 ◇ 紹介する物語を選び、学習に取り組もうとしている。 (ア 発言・ふり返り)
二	10	教材文	並行読書	
		新聞作りに向けて、物語の構成やあらすじを知る。		
	③	● 全文シートを用いて場面ごとに一文のあらすじを書き、新聞にまとめる。	④	● 全文シートを用いて場面ごとに一文のあらすじを書き、新聞にまとめる。
				<ul style="list-style-type: none"> ・教科書教材では一文あらすじのやり方を理解させるために児童と共に行っていく。 ・一文であらすじを書くことが難しい児童には、「いつ・どこで・だれが・何をした」を探させる。 ◇ 物語の内容を紹介するために、構成やおおまかなあらすじを捉えて書いている。(イ① 新聞)
		登場人物の性格を押さえ、相互関係を考える。		
	⑤	● 新聞に、主な登場人物のプロフィールをまとめる。	⑥	● 新聞に、主な登場人物のプロフィールをまとめる。
				<ul style="list-style-type: none"> ・登場人物の気持ちや様子が分かる叙述から、付箋に登場人物の気持ちを想像させて書かせる。 ・困っている児童には、登場人物の行動や会話に着目させる。 ◇ 行動や会話に即しながら、登場人物の性格を押さえることができる。(ウ 新聞)
		登場人物の気持ちの変化を考える。		
	⑦	● 登場人物の気持ちが変わる前と後に	⑧	● 同じ本を選んだ友達と登場人物の気持ち
				<ul style="list-style-type: none"> ・登場人物の気持ちを想像しやすいように、インタビュー形式に

		<p>ついて、叙述に着目してインタビューをし合い、新聞に書き込む。</p>	<p>が変わる前と後について、叙述に着目してインタビューをし合い、新聞に書き込む。</p>	<p>して、登場人物の心に迫れるようにする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・インタビューを考えることが難しい児童には、登場人物の性格や境遇、場面の移り変わりとともに変化していく様子をふり返らせる。 <p>◇叙述を基に、想像しながら登場人物の気持ちを考えている。</p> <p>(イ① 新聞)</p>
<p>登場人物の気持ちを想像して物語の続きを書く。</p>				
		<p>⑨ 本時</p> <ul style="list-style-type: none"> ●話し合ったことを基に、物語の続きを新聞にまとめる。 	<p>⑩</p> <ul style="list-style-type: none"> ●話し合ったことを基に、物語の続きを新聞にまとめる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・登場人物はどんな気持ちだったか、またそれはどうしてなのかを考えさせ物語全体をふり返らせる。 <p>◇場面の移り変わりに気をつけて、登場人物の気持ちを想像している。(イ① 発言・新聞)</p> <p>◇自分が選んだ本を紹介するために進んで読もうとしている。</p> <p>(ア 行動観察)</p>
<p>物語をふり返り、新聞を完成させる。</p>				
		<p>⑪</p> <ul style="list-style-type: none"> ●新聞のキャッチコピーを再度考え、自分の考えをまとめて新聞に書く。 	<p>⑫</p> <ul style="list-style-type: none"> ●新聞のキャッチコピーを再度考え、自分の考えをまとめて新聞に書く。 	<ul style="list-style-type: none"> ・友達の考えや自分の経験と照らしあわせて考えさせる。 ・同じ本を選んだグループで感想を交流したものを手助けにさせる。 <p>◇キャッチコピーを再度考え、学習を通して考えたことを書くことができている。</p> <p>(イ② 発言・新聞)</p>
三	2	<p>新聞を基に、友達と交流する。</p>		
		<p>⑬</p> <ul style="list-style-type: none"> ●作った新聞を基に、友達と交流し 	<p>⑭</p> <ul style="list-style-type: none"> ●作った新聞を基に、友達と交流して自分 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の今までの経験と重ねて、想像して読むようにさせる。

	て自分の考えを深める。	の考えを深める。	◇友達に進んで新聞を紹介している。 (ア 交流・ふり返り)
--	-------------	----------	----------------------------------

7 本時の指導 (9時/14時)

(1) 目標 登場人物の気持ちを想像して、物語の続きを書くことができる。

(2) 指導過程

時間	主な学習活動	主な発問 (○) と指示 (△)	指導上の留意点 (・) と評価 (◇)
11:20	・学習をふり返り、本時の見通しをもつ。	△今日のめあてを確認しましょう。	・児童に、今日の学習で何をするのかを意識させる。
登場人物の気持ちを想像して、物語の続きを書こう。			
11:25	・登場人物の気持ちの変化についてふり返り、共有する。	○ごんの気持ちは、どのように変化しましたか？ ○兵十の気持ちは、どのように変化しましたか？	・これまで学習してきたインタビューやプロフィールを基に考えさせる。
11:30	・ごんぎつねから感じ取れることを考え、交流する。	○ごんがうなずいたとき、どんな気持ちだったでしょうか？ ○ごんがうなずいたとき、兵十はどんな気持ちだったでしょうか？	・叙述を基に、ごんの気持ちを想像しながら考えさせる。
11:50	・話し合ったことを基に物語の続きを想像して、新聞に書く。	△物語の続きを想像して、新聞に書きましょう。	・書きにくい児童には、これまでまとめてきた新聞や板書をもとに考えさせる。 ◇登場人物の気持ちを想像して、新聞に書いている。 (イ 新聞)
12:05	・学習のふり返りを行い、次時の学習課題を知る。		